



イースターによせて

一人ひとりが神様に愛されている大切な命。
イースターの喜びを語っていただきました。



幼稚園教諭 岡林 亜季

イースターって嬉しい日！

幼稚園に入園したばかりの年少組には、まだ神さまやイエスさまのことをあまり知らなくて「イースターってなあに？」といった様子の子どももいます。そんな子どもたちと過ごすイースターで保育者が願うことは「イースターって嬉しい日！」と感じてもらうことです。

2023年度のイースター礼拝では、年少組の親子で礼拝をまもり、(パネルシアターを用いた)動物たちがイースターを喜んで卵探しをする話を聴いてから、裏庭に出かけて親子で卵探しをしました。子どもたちは一生懸命に卵を探し、見つかると「あった！」と言って嬉しそうにお家の方に卵を見せていました。

一貫校で歩む子どもたちはこの先、イエス・キリストの降誕や奇跡、受難、そして復活の物語を毎年聴いて、その年齢に応じた受け止め方をしていくことでしょう。その一番最初のイースターが、イエスさまが復活されていつも私たちと共にいてくださるといふ喜びを親子で分かち合う時となることを願っています。

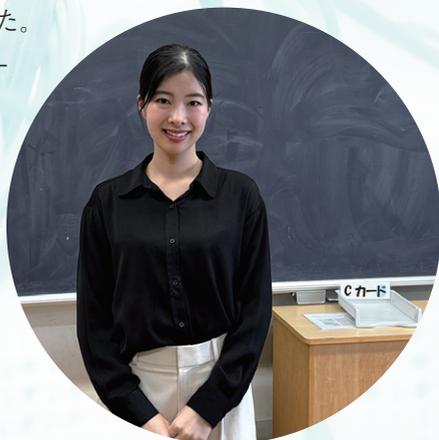
初等部教諭 名取 天音

神様と共に踏み出した一歩

2018年4月1日、高校三年生になる年のイースターに私は洗礼を受けました。クリスチャンホームに生まれ、幼少期から教会生活を送る中で、いつか自分も受洗するのだろうかという漠然とした想いで過ごしてきましたが、ミッションスクールの高校で学び、神様の存在を改めて知ったことで、受洗を考えるようになりました。

しかし、高校生の私にとってクリスチャンとして歩む決心をすることは簡単ではありませんでした。教会に通っている同年代の友人は少なく、自分の中で悶々と悩む日々が続きました。そんな私がクリスチャンとして神様と共に一生を歩む決心がついたのは、周りの人が心から喜んでくれたからです。家族、教会の方々、先生方、誰もが受洗したいけど一歩踏み出すことのできない私の背中を押し、受洗することを心から喜んでくれました。そして2018年のイースターに、私は新しい一歩を踏み出すことができました。

そんな2018年のイースターは、私にとってかけがえのない大切な日です。



中等部3年 大塚 千鶴

私のイースターエッグ



皆さんはイースターといえば何を思いつきますか？ 大体の人がウサギかたまご（もしくはひよこ）と答えると思います。ウサギは多産な動物なので、縁起がいいそうです。また、たまごのほうは動かないたまごから雛という生き物になる光景がイエス・キリストの復活の様に見えることからイースターで用いられるそうです。

私は今までエッグハントしたことは数回しかありません。100円ショップで売っているようなプラスチック製のイースターエッグを探しました。見つけ出したイースターエッグにはある時は個包装の飴、ある時はチョコレート、ある時は何も入っていませんでした。でも、イースターエッグに入っているのはそれだけでしょうか。私はたまごがイースターで用いられる理由を知ったときにイースターエッグの本当の中身は神様なのではないかと考えました。



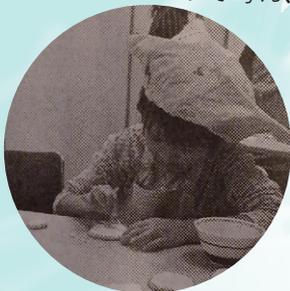
私たちの目には神様は映りません。一人ひとりの心に神様はいらっしゃる。と礼拝の説教で聞きました。いつかイースターエッグを見つげ出すように自分の心の中で神様を見つげ出せたらいいなと思います。

高等部3年 野呂百合子

私とイースター



私がイースターの思い出で一番印象に残っているのは、自分の通っている教会で小学生の時に参加したアイシングクッキー作りです。お菓子作りが得意でいらっしゃる教会員の方に教えていただきながら、うさぎや卵などの形をしたクッキーに水色や黄色、緑色などのクリームで自分の思いのままにデコレーションしていきました。普段なかなかお話しする機会がない教会のおじいちゃまやおばあちゃまとお互いのクッキーの出来を見せ合ったり、お話ししたりしながら打ち解け、あっという間に時間が過ぎていきました。当時はまだイースターの意味をよく理解できていなかったのですが、教会員の方と一緒に楽しみながらお祝いすることができ、とても嬉しかったことを覚えています。そしてそれをきっかけに少しずつ十字架や復活の意味について考えるようになりました。今年は高等部でキリスト教に初めて触れる方と共にもう一度その意味について考え、豊かな学びの時としていきたいです。



経営学部3年 大谷 未来

新しい生活と復活の希望

イースターおめでとうございます。

そして、新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

経営学部マーケティング学科3年の大谷未来です。

別れと出会いの季節、新入生の皆さんの中には、高校の別れを惜しみつつ、新たな生活に期待を覚える方も居るかもしれません。

イエスが復活されたのもこの時期。

イエスが去って、悲しみのどん底にいたのも束の間、墓の闇をも開かれて、いつまでも私達に希望を与えてくださる救い主としてイエスは復活されることを、イースターを通してもう一度語られます。

私は入学時に友達に誘われて、青山キリスト教学生会（ACF）に入会し、同世代の友達の祈りを聞き、昨年のイースターに受洗し、新しい命として生まれ変わりました。

受洗式では、足を運んでくれたACFの友達に、改めて神様に繋がれている愛、共に歩める喜びを覚えました。

入学時はクリスチャンではなかった私も、大学生活の大半をACFの友達と共に過ごしていることに感謝を覚えます。

イースターのこの時期、大学での新しい生活に花が咲き、心踊る希望を持てることをお祈りしています。

